

意見募集（パブリックコメント）の結果について

- 1 計画等の案の名称 真鶴町公共施設等総合管理計画（案）
- 2 募集期間 2026年2月2日（月）から2月20日（金）
- 3 実施結果 5名（件数 22件）
- 4 いただいたご意見

No	ページ	意見の趣旨（要旨）
1	P60	旧民俗資料館について、資料館として、主に真鶴町の歴史・文化を継承していくためにも残し、また、あらゆる世代が気楽に集まれ、外に歴史を発信する場所としてほしい。 建物は、文化財登録でさらに価値を高めてほしい。
2	P60	旧民俗資料館について資料館や役場分庁舎の複合施設を模索するとなっていて、良かった。 近隣の人が集まる場所がないため、資料館が休館の時に利用できるようにしてほしい。 公民連携となっているが、文化財になるのならば、なるべく行政が主導するべき。
3	P39	情報センターが役場になると集まる場所がない。また、3Fの図書館も数年後には移動させられるかもしれません。近隣のくらしかる真鶴も使えると聞いたが、現状、楽しく使える状態とは思えない。 趣味の会は生産性がないが、生活していく中でやすらぎを持てる時間。資料館も美術館も図書館も人間として成長していく大事な場所ではなくてはならない施設。今の真鶴町は町民にとって大切な物を削ろうとしている。
4	P40	遠藤貝類博物館は日本全体を見渡しても、とても良い施設なので、誘客増に取り組みながらも直営のかたちで存続してほしい。名称変更は、遠藤先生の功績を考えると無理だと思う。
5	P52	お林展望公園（管理棟）はパークゴルフ場として、町民の健康維持に果たしてきた役割は、大事なので、今後も活用されるよう希望する。トイレ機能も利用者のことを考え、なくさない。石の広場との集約化は無理がある。
6	P59	真鶴町にとって移住者を増やすことは、人口増という観点からとても大切なテーマ。移住増の機能を拡充すべきと思うので、くらしかる真鶴の存続を希望する。
7	P60	旧民俗資料館について、これまで公民連携により活用方法を考えてきたが、資料館として残してほしいという意見が圧倒的で、運営方法については、もっと利用者を増やす方法を検討することが必要という意見がでていた。その中で役場機能を付加する、自治会などが公民館として使う、イベントを沢山計画する等様々な案が出ていた。真鶴町の大事な石材産業のことを今に伝える土屋家の建物の国登録有形文化財化も絶対必要。民間に任せることなく、直営を基本に進めてほしい。
8	P60	旧風外堂について、風外慧薫が真鶴に残した足跡は大きい。石碑だけの保存ではなく、慧薫のことが次世代の人たちにも継承されていくよう記念館などを作られた方が良いと思っているため、民間活力による土地利用などは慎重に考えてほしい。

9	P31	役場庁舎の機能を情報センター真鶴へ移転させることは反対。情報センター真鶴や図書館としてそれぞれ大事な役割を果たしている建物に、役場機能を移転することに無理がある。役場の事は移転も視野に入れながら役場・町民・関係者の声を聴き、独自に検討されるべき。
10	P39	情報センター真鶴（図書館）の公共図書館としての役割は、学校図書館と別物のため、集約統合できない。その方向を探った他の町でも、公共図書館が欲しいという声が上がっていると聞いた。一時的な都合で統合など考えてほしくない。機能移転後、役場庁舎として活用するなど、まだ決まっていないため、書くべきではない。
11	P34	まなづる小学校（校舎）の跡地利用については学校建設準備委員会からの答申を尊重してほしい。幼稚園用地・老人施設等町民が利用できる場所になることを希望する。
12	P34	まなづる小学校（プール）は廃止ではなく、体育授業に利用できるよう義務教育学校に作られることを希望するが、無理だったら今の場所で存続してほしい。
13	P47	人口バランスから見てもシニア世代の多い土地柄、老人が自由に使える場所は必要なため、老人福祉センターを縮小はあってもなくさないでほしい。
14	P37	宮の前地区集会所がなくなると、みさき地区の集まれる場所がなくなってしまう。他施設に転用されるにしても、その中に集会所の機能は確保される形を希望する。
15	P39. 40	中川一政美術館は町立の美術館で、町民の誇りでもあり、町の財産として次世代に継承していくべき。そもそも美術館の運営は収益が上がりにくいのが常識となっているからこそ、直営で支えるくらいに考えるのが正道。仮に売却などした場合、美術館の行く末を考えると背筋が凍る。真鶴を愛した中川先生のことを考え、多くの人に見てもらえる工夫をしながら維持していくべき。売却などもってのほか。
16	P39	<p>情報センターの会議室を追い出され、また、1Fの利用も廃止され役場機能になるとか。住民の自主的活動を狭める方向性に嫌になる。映像ホールで会議はできるのか。また、映像ホールで静かな環境は作れるのか。多目的スタジオを借りる時、スタジオとして使用しない場合、料金は安くできないのか。</p> <p>図書館は町の人々が利用しやすい場所のほうが良い。線路を超えるのは老人の多い真鶴では、適当ではない。利用者が減少していると書かれているが、人口が減っているので、当然だ。人口の割合などにすべきだ。</p>
17	P39. 40	中川一政美術館について、文化系施設は儲かるかどうかで判断するのはおかしい。少し文化に優しい政策、審議会の答申を守って存在させてほしい。
18	P31	役場庁舎について、選挙公約に役場移転はなかった。静かな真鶴にしてほしい。
19	P39	<p>(1) 施設稼働率について</p> <p>施設稼働率がわかる資料を添付したほうがいい。</p> <p>(2) 「利用者の人数」のとらえ方について</p> <p>貸会議室の利用者や稼働率の「多い・少ない」をどのように捉えるかによって、公共移設の実態は違って見える。稼働率の調査時に、どういう人が利用しているかを調べると公共施設の利用状況の低さがわかる。情報センターの貸会議室の利用者は顔ぶれが決まっている。利用者は町外の方もい</p>

		<p>るため、稼働率が増加しても、町民利用者が増えたわけではない。「町民みんなが愛用してきた施設を閉鎖するのか？」という意見は実態を把握していない感情的な反論でしかない。</p> <p>(3) 多くの町民が利用できる施設の創出</p> <p>情報センター1階フロアの利用者は、小中学生から母と乳幼児、高齢者まで幅広い年代の町民だ。まだ特定の町民のように見受けられるが、このような老若男女の住民が気軽に利用できる公共ホールや公共広場が必要。そこにフードコート形式の飲食店を置いて、お金を落としてもらうようにすればその施設の維持管理費の充足になるし、もっと上手い経営をすれば町の財政を助ける事業になる。</p>
20	P52	<p>公園事務所</p> <p>荒井城址公園の管理事務所より公園自体が不評で特にこどもがいる家庭に不評。急な坂道だし、薄暗くて危険、子どもだけで遊ばせたくないというのを耳にする。</p> <p>お林展望公園の管理事務所の有効活用を検討するには、公園全体をどのように企画・運営するのかを考えるべき。ただの広場では町の収益にならない。パークゴルフは一部の愛好者にしか恩恵はない。事例で書かれた「森の幼稚園」はいい案。自然や斜面を生かしたプレイランドで町の収益につながる事業が必要。</p> <p>例：自然公園、フィールドアスレチック、長いローラー滑り台</p>
21	P39	<p>情報センター</p> <p>(住民サポートコーナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリーには不向きな照明で、3連スポットライトなので影ができる ・作品1つ1つを照らす照明か、会場全体をまんべんなく明るく照らす照明が必要 ・会場が情報センターの1番奥にあってそこで何をしているかわかりにくい。 ・明るさが均一で、外からでも作品が見えることから、映像ホールのほうがギャラリーに適している。 ・住民サポートコーナーは集会や会議には適している。 <p>(映像ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このホールの利点は外の通行人や館内利用者が通りすぎりに「何かやってる！」と気づいて見てもらえること ・外の光や館内照明が均一にあたって作品がよく見える ・展覧会の利用申請が出たらパネルを設置して絵を展示する。 ・住民サポートコーナーの台用施設として活用できる。
22	全体	町の公共施設の貸部屋を一元管理したHPが必要(今はバラバラ)